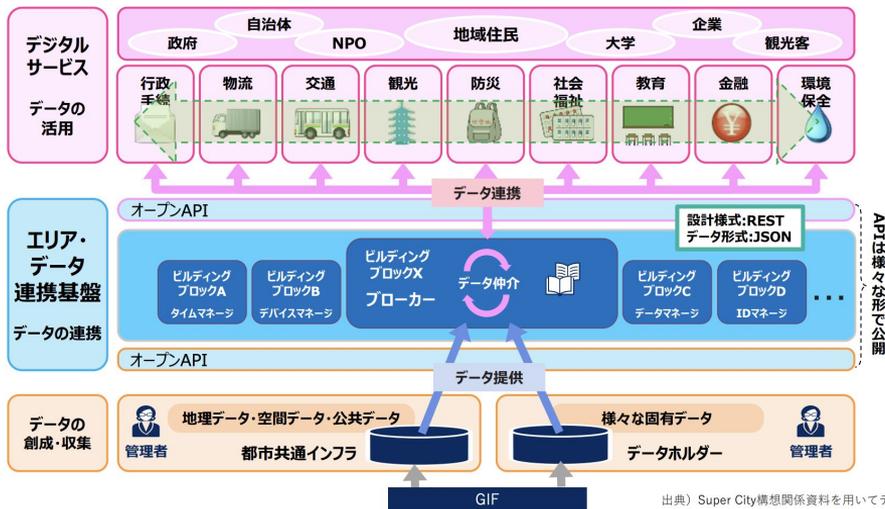


農村ネットワーク x データ連携基盤

東京農工大学・農学部・地域生態システム学科
西村 和海

データ連携基盤とは

デジタル田園都市国家構想の実現のため導入が促進されている、サービス間でのデータ連携を担う仕組み。



“活用するシステムの統一や標準化などを個々に行わなくても、様々なサービスの間で、データの連携・共有を自由に行うことができるようになる。”

データ連携基盤の現状

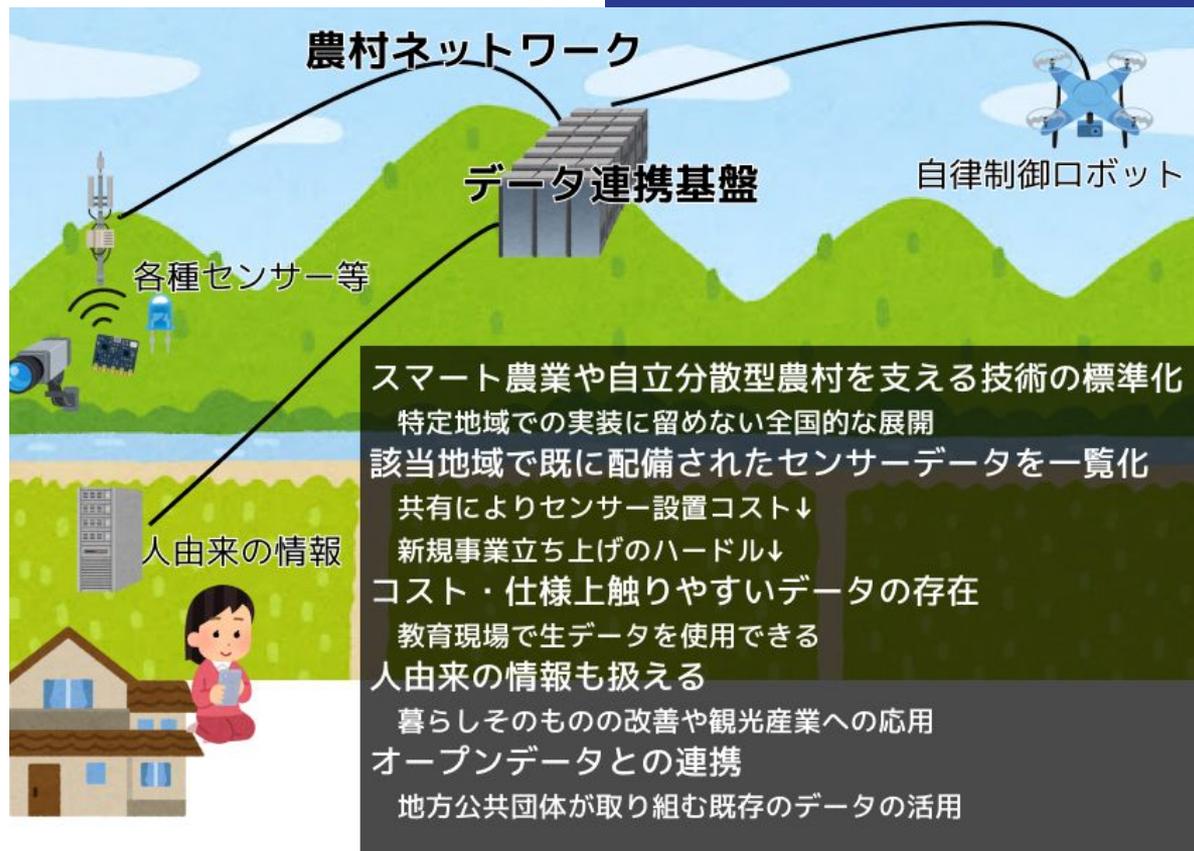
2021年3月時点で、スマートシティの技術実装は33 ([データ戦略の推進状況](#) | デジタル庁)

データポータルとして活用をしている事例は見つけられたが、基盤上での連携事例はあまり見受けられない(見つけられませんでした)

令和4年度における「デジタル田園都市国家構想推進交付金」の採択事業において、データどうしを連携させる案は複数現れている

[デジタル田園都市国家構想推進交付金\(デジタル実装タイプTYPE2/3\)の採択結果について](#) | 内閣官房・内閣府総合サイト

農村ネットワーク × データ連携基盤



メリット1

スマート農業や自立分散型農村を支える技術の標準化

特定地域での実証・実装を、全国的に展開することが可能となる

新しい種類のデータの連携に際しても実装コストを減らせる

メリット2

該当地域で既に配備されたセンサーデータを一覧化

既にセンサーを設置している事業者

共有によりセンサーの維持コストの減少

センサーデータを利用する事業者

新規事業立ち上げのハードルを下げる

メリット3

教育現場で生データを使用できる

各地で情報技術の研修を行う際、身近に活用できるデータを使える

- 学校教育
- 研修会

メリット4

人由来=(屋外のカメラ・センサー以外)のデータ

観光産業への活用や、住民の生活に直結した行政サービスの活用ができる

課題・要検討事項

データ・センサーは誰が用意するのか

→既に事業化している/目処がある事業者

→自治体

農業データ連携基盤 (WAGRI)との連携・棲み分け

→WAGRIは農業に特化した用途で、データ連携基盤はより広い分野のデータを集め、使い分ける？